

## 早期体験学習

責任者・コーディネーター	臨床薬学講座薬学教育学分野 奈良場 博昭 教授 生物薬学講座機能生化学分野 中西 真弓 教授 臨床薬学講座地域医療薬学分野 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬学講座薬学教育学分野、薬科学講座構造生物薬学分野、生物薬学講座機能生化学分野、臨床薬学講座地域医療薬学分野、薬科学講座天然物化学分野、生物薬学講座生体防御学分野、病態病理学講座分子細胞薬理学分野、病態病理学講座臨床医化学分野、医療薬科学講座創剤学分野、生物薬学講座神経科学分野、病態薬理学講座薬剤治療学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、医療薬科学講座薬物代謝動態学分野、薬科学講座創薬有機化学分野、薬科学講座分析化学分野、医療薬科学講座衛生化学分野、救急・災害・総合医学講座救急医学分野、救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野、超高磁場 MRI 診断・病態研究部門		
対象学年	1	区分・時間数	実習 33 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

早期体験学習では、薬学の学習に対するモチベーションを向上させるため、薬剤師や薬学関連職種が活躍する現場を実体験することを目的とします。医療人として必要な倫理観を身につけるとともに豊かな人間性を涵養し、6年間の学びの礎を構築します。この科目は「薬学入門」と密接に関わっており、知識面での学びを同科目から補完し、それをグループワークや体験学習をとおして発展させていきます。

### ・教育成果（アウトカム）

医療関連施設の見学、種々の体験学習を行い、健康の維持と疾病を治癒することの大切さを実感し、医療コミュニケーション、疾病解析と予防、治療薬を開発するための基本的知識、技能、態度と倫理観を身につけることによって、医療人になることを自覚できるようになる。（ディプロマ・ポリシー：1～9）

### ・到達目標（SBO）

1. 医療倫理や臨床研究の規範に基づき、医療における患者の基本的権利を守り、患者の価値観や人間性に配慮することの重要性を認識する。
2. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療の在り方について討議する。（☆）
3. 救急救命法、心肺蘇生法、応急手当法の基礎を学び、模擬体験学習することによって、生命と向き合う医療人を自覚する。
4. 大学病院、薬局、各種施設などの医療現場を見学・体験学習（不自由体験など）し、患者さんの気持ち、医療チームを支える一員としての使命などについて討議する。
5. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）
6. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
10/6	火	1・2	地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授 中西 真弓 教授	君はどんな態度・気持ちで早期体験学習に望むべきか（スモールグループディスカッションと発表） 事前学習：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。
		3・4	超高磁場 MRI 診断・病態研究部門 救急・災害・総合医学講座 機能生化学分野 機能生化学分野 創剤学分野	佐々木真理教授 山田裕彦准教授 後藤 奈緒美助教 關谷 瑞樹助教 杉山 育美助教	7 テスラ見学 ドクヘリ見学 事前学習：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。
10/7	水		地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野 生体防御学分野 構造生物薬学分野 構造生物薬学分野 臨床医化学分野 臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 衛生化学分野 衛生化学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授 中西 真弓 教授 錦織 健児 助教 野中 孝昌 教授 阪本 泰光 准教授 那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 高橋 巖 助教 三部 篤 教授 手塚 優 助教 杉山 晶規 教授 川崎 靖 助教	10/7、10/8、10/12 期間で実施。 1日：午前にケアセンター南昌見学 2日間：2時間程度2か所の保険薬局見学 希望場所で研究室見学（1か所以上） 事前学習：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。
10/8	木		地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野 分析化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 機能生化学分野 機能生化学分野 生体防御学分野 生体防御学分野 生体防御学分野 臨床医化学分野 臨床医化学分野 臨床医化学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授 中西 真弓 教授 牛島 弘雅 助教 河野 富一 教授 田村 理准 教授 辻原 哲也 助教 稲垣 祥 助教 後藤 奈緒美 助教 關谷 瑞樹 助教 大橋 綾子 教授 白石博久 特任教授 錦織 健児 助教 那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 高橋 巖 助教	10/7、10/8、10/12 期間で実施。 1日：午前にケアセンター南昌見学 2日間：2時間程度2か所の保険薬局見学 希望場所で研究室見学（1か所以上） 事前学習：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。

			薬劑治療学分野 薬劑治療学分野 創劑創劑学分野 創劑創劑学分野 衛生化学分野 衛生化学分野	三部篤教授 塚優助教授 佐塚泰之助教授 杉山育美助教 尾山泰佑助教 山晶規教授 崎晶靖助教	
10/9	金	1・2	地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野	高橋寛教授 奈良場博昭教授 中西真弓教授	地域包括ケアについて グループワーク 事前学習：早期体験学習の手 引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認 し、学んだことを整理してお くこと。
		3・4	地域医療薬学分野 薬学教育学分野 創薬有機化学分野 情報薬科学分野 生体防御学分野 薬劑治療学分野 生体防御学分野 機能生化学分野 臨床薬劑学分野	高橋寛教授 奈良場博昭教授 河野富一教授 西谷直之教授 大橋綾子教授 三部篤教授 白石博久特任教授 中西真弓教授 朝賀純一准教授	病院薬劑部見学、病院見学 事前学習：早期体験学習の手 引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認 し、学んだことを整理してお くこと。
10/12	月		地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野 臨床医化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 生体防御学分野 生体防御学分野 生体防御学分野 創劑学分野 創劑学分野 創劑学分野 衛生化学分野 衛生化学分野 情報薬科学分野 情報薬科学分野	高橋寛教授 奈良場博昭教授 中西真弓教授 大橋一品准教授 河野富一教授 田村理准教授 辻原哲也助教 稲垣祥助教 大橋綾子教授 白石博久特任教授 錦織健児助教 佐塚泰之教授 杉山育美助教 松尾泰佑助教 山晶規教授 川崎晶靖助教 西谷直之教授 佐京智子助教	10/7、10/8、10/12 期間で 実施。 1日：午前ケアセンター 南昌見学 2日間：2時間程度2か所の 保険薬局見学 希望場所で研究室見学（1か 所以上） 事前学習：早期体験学習の手 引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認 し、学んだことを整理してお くこと。
10/13	火	1~4	救急・災害総合医学講座 救急・災害総合医学講座 高度救命救急センター 地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野 薬物代謝動態学分野 情報薬科学分野	照井克俊准教授 高橋智弘講師 佐藤正幸助教 高橋寛教授 奈良場博昭教授 中西真弓教授 幅野涉准教授 佐京智子助教	不自由体験 心肺蘇生法講習(3・4時) 事前学習：早期体験学習の手 引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認 し、学んだことを整理してお くこと。

10/14	水	1~4	地域医療薬学分野 創薬有機化学分野 構造生物薬学分野 臨床薬剤学分野 天然物化学分野 衛生化学分野 神経科学分野 薬剤治療学分野 臨床薬剤学分野	松浦 誠特任教授 田村 理准教授 阪本 泰光准教授 朝賀 純一准教授 浅野 孝助教 川崎 靖助教 藤田 融助教 手塚 優助教 高橋 宏彰助教	模擬体験 事前学習：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。
10/15	木	1~3	地域医療薬学分野 薬学教育学分野 機能生化学分野	高橋 寛教授 奈良場 博昭教授 中西 真弓教授	早期体験学習で学んだこと、考えたこと（スモールグループディスカッションと発表） 事前学習：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学習：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	早期体験学習の手引き（早期体験学習ガイドンスで配布）			2020
参	救命救急フライトドクター	岩貞るみこ	講談社	2011
参	人工呼吸・心臓マッサージができなくても AED（自動体外除細動器）を、使ってください	輿水健治	保健同人社	2006
参	これならわかる<スッキリ図解>障害者総合支援法	遠山真世ほか	翔泳社	2014
参	青森ドクターヘリ 劇的救命日記	今明秀	毎日新聞社	2014
参	介助が困難な人への介護技術	滝波順子、田中義行	中央法規出版	2014

・成績評価方法

体験学習のため、全項目の参加とプロダクトの提出をもって100点とする。ただし、参加態度、遅刻、提出期限の延滞等により減点する。

・特記事項・その他

体験型学習のため自ら進んで積極的に参加することが望ましい。事前・事後学習には、それぞれ30分程度を要する。提出物に関しては、必要に応じてフィードバックを行う。